

■ 一調剤申し合わせ

調剤申し合わせについて

- 1) 一定のルールを定め調剤者が異なっても、患者様に毎回同じ薬剤を提供し、不安を与えないように申し合わせたものである。
- 2) 申し合わせで規定されていない特殊な処方、各人の専門的な判断により調剤し、事後薬剤部長に報告する。
- 3) 本申し合わせは、原則として毎年改訂する。変更または追加があるときは必要に応じて薬剤部業務打ち合わせ会で検討する。
- 4) 3)で医局に関係あるものは薬事委員会で検討承認後、医局会に報告する。
- 5) 本申し合わせは院内調剤における規定であるが、入院中の調剤情報として当院HPで公開する。

1. 錠剤

- 1) 薬品名は原則として商品名で表記している。
- 2) 複数力価を持つ薬剤の入力の際は特に規格に注意する。下記複数力価採用薬あり。

商品名	mg 数			商品名	mg 数		
アジルサルタン OD 錠	10	20		タケキャブ錠	10	20	
アトルバスタチン錠	5	10		タシグナカプセル	150	200	
アプレピタントカプセル	80	125		ダーブロック錠	1	2	4
アルファカルシドールカプセル	0.25	1		タルセバ錠	25	100	150
イクスタンジ錠	40	80		TS-1 配合カプセルT	20	25	
エソメプラゾールカプセル	10	20		テオロング錠	100	200	
エナラプリル錠	2.5	5		デカドロン錠	0.5	4	
エヌケーエスワン配合 OD 錠	T20	T25		テモゾロミド錠	20	100	
エフィエント錠	3.75	OD20		ドネペジル OD 錠	3	5	
エベレンゾ錠	20	50	100	ニンラーロカプセル	2.3	3	4
エリキウス錠	2.5	5		パフセオ錠	150	300	
オキシコドン徐放錠 NX(麻)	5	10	40	ビソプロロール錠	0.625	2.5	5
オフェブカプセル	100	150		ポリコナゾール錠	50	200	
ガランタミン OD 錠	4	8		フォシーガ錠	5	10	
カルベジロール錠	2.5	10		プレガバリン OD 錠	25	75	
カロナール錠	200	500		プレドニゾン錠	1mg	5mg	
ジピリダモール錠	25	100			「旭化成」	「タケダ」	
シロスタゾール OD 錠	50	100		フロセミド錠	20	40	
セララ錠	25	50		ベルソムラ錠	15	20	
スプリセル錠	20	50		ポマリストカプセル	1	2	
タグリッソ錠	40	80			3	4	

商品名	mg 数		商品名	mg 数	
マグミット錠	330	500	リバーロキサバン OD 錠	10	15
ミラベックスLA錠	0.375	1.5	レキップCR錠	2	8
メマンチン錠	5	20	レンビマカプセル	4	10
ランソプラゾール OD 錠	15	30	ロスバスタチン OD 錠	2.5	5
リクシアナ OD 錠	30	60	ロンサーフ配合錠T	15	20

3) 錠剤の分割（半錠化）は割線があるものについてのみ行う。割線がないものや3/4等割線以外での分割は均一さを欠くので粉碎して調剤する。

但し、割線がない場合でも特別にカットし調剤する場合もある。粉碎した場合は処方箋に「粉碎」と記載しいずれの場合も次回以降も同一の調剤方法とする。

また、製剤上粉碎が不可能な場合は、処方医に連絡する。（ニフェジピンL、-CRなど）

調剤の際はツブシに使用した錠剤の錠数を処方箋に記入する。

粉碎した薬剤が同じ色調の場合、識別のため分包紙にラインを入れる。

2. 散剤

1) 同種薬剤で複数力価を持つ薬剤の入力の際は規格に注意する。

商品名	(mg 数/包装単位)		
オキノーム散	2.5mg	5mg	10mg
ユーエフイーE 配合顆粒 T	100mg(要時購入)		150mg(要時購入)
ロケルマ懸濁用散分包	5g		10g

2) 1回量が0.2g未満の場合は分包誤差を防ぐため、処方箋に表記がない場合でも適当な賦形剤(原則として乳糖)を加えて1回量(内包)を0.2gとする。

3) 外来処方の場合原則として、既成ヒート製品がある場合は、他剤と配合されていてもヒートの組み合わせ調剤を優先する。

入院処方の場合は必要に応じ1包化する。

R p. アルサルミン 3. 0 g

マーズレンS 2. 0 g 3 × 毎食後 1 4 T D の場合

★外来～アルサルミン 1 g を42包と、マーズレンS 0.67g を42包とする。

1回に各々1包ずつ服用指示する。

★入院～必要があれば1包にまとめて分包する。その場合薬袋指示は1回に1包となる。

分包の必要がなければ外来と同様。

4) <麻薬>

院内採用：オキノーム散：2.5mg/0.5g、5mg/1g、10mg/1g

オプソ内用液：5mg/5mL

- 5) 倍散処方記入の際、mg 入力力は力価、g 入力力は倍散量とする。(当院規定)
 Rp. 10%ウインタミン細粒 30mg 1×vds 5TD→力価表記(成分量で30mg)
 10%ウインタミン細粒 0.3g 1×vds 5TD→倍散量表記(成分量で30mg)

- 6) 配合変化を防ぐため同一番号で処方されていても下記の薬品は別包とする。
 アスピリン

- 7) 用法・用量が異なる散剤の処方入力は、薬袋出力の都合で下記のように行う。
 用法毎に分けて入力を行う。

Rp. プレドニゾン散 60mg (40mg・20mg・0mg)
 2×朝昼食後・・・薬袋が1枚しか出ないため1袋に用法用量が異なる薬を入れることになるため

したがって → プレドニゾン散 40mg 1×朝食後 } 別々に分けて入力!
 プレドニゾン散 20mg 1×昼食後 }

3. 水剤

- 1) アルロイドG内用液、イトラコナゾールシロップは原液で調剤し、1回服用量の目盛り部分に印を付けた水薬カップを添えて交付する。
- 2) インクレミンSyr、デパケンSyr、ポンタールSyrは、原則原液で調剤し交付する。
 服用法は原液量を表記しスポイドまたは水薬カップで秤取量を指示。秤取量が少ない場合は針をはずした注射器を用いる場合もある。

4. 外用

- 1) 同種薬剤で複数力価を持つ薬剤の入力の際は規格に注意する。

商品名	(記載なきものは単位:mg)			
	30mL	60mL	120mL	
グリセリン浣腸	30mL	60mL	120mL	
タコシール	3.0×2.5cm	4.8×4.8cm	9.5×4.8cm	
ニュープロパッチ	4.5	9		
ハルロピテープ	8	16		
★フェントステープ(麻)	0.5	1	2	4
ヘキサック	5%(要希釈)	0.5%	0.05%	
ボルヒール組織接着	1mL	3mL	5mL	
ジクロフェナク Na 坐薬	12.5	25	50	
モーラス(成分:ケトプロフェン)	テープ 20	ケトプロフェンテープ 40	パップ XR120	パップ XR240

★フェントス：慢性疼痛に対する処方医要件：e-ラーニング受講、処方時：患者様へ処方確認書交付

5. 薬袋書記

- 1) 原則として処方入力時のRp番号毎に1枚の薬袋を使用する。
- 2) 同じRpの中で1回の服用量（錠数、カプセル数）が異なる場合は別薬袋とする。

【処方入力時注意】

※錠剤、ヒート散剤の1日量を、「不均等分割」を選択して入力下さい。

※例外：秤量散剤の不均等分割入力はしないでください。（プリンター対応不可）

1回の服用量が異なる場合はRpを分けて下さい。

散剤の項参照。（ヒート製剤の散剤は別薬袋の対応可能です）

- 3) 院外処方箋における用法について「医師の指示どおり」は用いない。
（保険請求もれや個別指導の対象となる）
- 4) 点耳薬（オフロキサシン耳科用液、ホスミンS耳科用）、リンデロン点眼・点耳・点鼻液は耳鼻科処方の場合（点耳、点鼻）、ピコスルファートNa内用液には誤用防止のため「点眼禁止」を押印する。
- 5) 特別な服用が必要な場合には、その旨を用法に一行挿入してフリーコメントに入力して下さい。
★隔日服用、曜日など
★開始日、服用期間など（電子カルテにおいて、処方開始日はデフォルトで入力日の昼食後になっています。薬袋書記に反映させたい場合はコメント入力が必要です。）
- 6) 外来院内調剤の場合、抗ヒスタミン剤、や睡眠目的以外の抗不安薬・抗うつ薬等は薬剤情報提供書で眠気の注意を表示する。

【参照】添付文書または一般的用法が食後以外の薬剤

用法	分類	商品名	用法および服薬のタイミング
空腹時	前立腺がん治療薬	ザイティガ錠	1日1回空腹時
	分子標的治療薬	ベレキシブル錠	
		カボメティクス錠	
		メキニスト錠	
		エザルミア錠	
		ニンラーロカプセル	
		ジオトリフ錠	
	分子標的治療薬	タフィンラーカプセル	1日2回空腹時
		セムブリックス錠	
		タルセパ錠	1日1回 (食事の1時間以上前または食後2時間以上あと)
		ヴオトリエント錠	1日2回 (食事の1時間以上前または食後2時間以上あと)
	抗真菌薬	イトラコナゾール液	1日1回空腹時
	糖尿病治療薬 (GLP-1 受容体作動薬)	リベルサス錠	1日1回空腹時 (1日の最初の飲食の前に)
抗B型肝炎ウイルス薬	エンテカビル錠	1日1回空腹時	
がん悪液質治療薬	エドルミズ錠	1日1回空腹時 (服用後1時間は食事をしない)	
抗アレルギー薬	ピラノア錠	1日1回空腹時 (食事の1時間以上前または食後2時間以上あと)	
消化性潰瘍治療薬	アルロイドG内用液	1日3~4回空腹時	

用法	分類	商品名	用法および服薬のタイミング
食前	抗結核薬	リファジンカプセル	原則として朝食前空腹時
	アルドース還元酵素阻害薬	キネダック錠	1日3回毎食前
	ディスペプシア治療薬	アコファイド錠	1日3回毎食前
	慢性便秘治療薬	グーフイス錠	1日1回食前
		リンゼス錠	
	消化管機能調整薬	イトブリド錠	1日3回毎食前
ナウゼリン錠			
メトクロプラミド錠		1日2~3回食前	
食直前	糖尿病治療薬 (速効型インスリン分泌促進薬)	ミチグリニド OD 錠	食事5分前以内の毎食直前
		レバグリニド錠	食事10分前以内の毎食直前
	糖尿病治療薬 (α グルコシダーゼ阻害薬)	ボグリボース OD 錠	1日3回毎食直前
		ミグリトール OD 錠	
高リン血症治療薬	フオゼベル錠	1日2回朝・夕食直前	
食直後	高脂血症治療薬	イコサペント酸エチル粒状	1日3回毎食直後
	消化酵素製剤	リパクレオンカプセル	
	高リン血症治療薬	沈降炭酸カルシウム錠	
		炭酸ランタン OD 錠	
	鉄欠乏性貧血治療薬	リオナ錠	1日1回食直後
食間	抗真菌薬	ポリコナゾール錠	1日2回食間
起床時	骨粗鬆症治療薬	アレンドロン酸錠	起床時 (最初の飲食前に服用し服用後30分以上は水以外の飲食は避ける)
		リカルボン錠	

※漢方薬は原則として食間または食前

錠剤一包化における約束事項

1. 錠剤自動分包機(A T M)の稼働時間

平日：原則業務時間内に提出された処方箋のみとする。

休診日(土曜・日曜・祭日)：原則A T Mは稼働しません。

- * 上記以外の時間帯においては、次回の錠剤自動分包機(A T M)の稼働日に合わせて、ヒート調剤とする。

2. 分包化における申し合わせ事項

1) 処方オーダー入力時の医師の指示に基づき一包化する。

2) 処方オーダーの分包に関するオーダーには「一包化」「分包」「別包」「ヒート」がある。

■「一包化」：同一処方箋薬を可能な限り分包する。処方入力画面下部の一包化にチェックする。

但し、日数の違い、食後と食前などの指示が違う場合は別包となります。単品であっても分包されます。

散薬、水薬、外用薬、分包出来ない錠剤は自動的に分包からはずれます。

■「別包」：指定したRpのみ別包

希望するRpの用法に右クリックで一行挿入してコメントで「別包」を入力。

■「ヒート」：一包化を指示した処方箋において分包しない医薬品がある

薬品毎に右クリックで一行挿入してコメントで「ヒート」を入力する。

3) 錠剤の分割処方(1錠以外、半錠等)は自動で分包となる(オーダーで分包指示不要)

4) 次の薬剤は分包の指示があってもヒートで調剤する。

- ・吸湿性のある薬品(ウラリット配合錠・アスパラK錠・セルニルトン錠・セレニカR錠・トラベルミン錠・ベルソムラ錠など)
- ・シクロスポリンカプセル
- ・メトトレキサート錠
- ・医療用麻薬(オキシコドン徐放錠**NX**)
- ・抗がん剤や取扱注意の記載がある薬剤
- ・ビスホスホネート製剤

5) 次の薬剤は錠剤分中に他の処方への混在をさけるため、分包しないことが望ましい。但し、指示があれば分包する。

- ・糖尿病治療薬(血糖降下剤, 速効型インスリン分泌促進薬, インスリン抵抗性改善薬 α -グルコシダーゼ阻害薬, DPP4-阻害薬, SGLT-2阻害薬)

院外処方規定および実施マニュアル

院外処方規定

<対象>

原則として、外来処方はすべて院外処方とする。

<院外処方箋>

■院外処方箋：医師が入力した一番近いプリンターから出力。

■外来院内（事故、入院、入所中など）処方箋：薬剤部プリンターから出力
処方箋の記載方法については、院内の調剤における申し合わせに準じる。

<調剤方法>

原則として、調剤方法は院内の調剤における申し合わせに準じる。

尚、院外調剤薬局において、患者様の便宜をはかる目的で説明の後、調剤方法を変える場合はその限りでない。

院外処方実施マニュアル

1. 発行上の留意事項

- ① 併科受診患者の同日の院内、院外処方両者発行は行わない。
- ② 倍量処方は行わない。
- ③ 長期投与については厚生労働省の処方日数制限に準じる。
- ④ カルテへの病名記載もれに注意する。
- ⑤ 院外処方箋の有効期限は発効日を含めて4日以内。
- ⑥ 院外処方についてのトラブル、苦情については誠意をもって各部署にて十分な対応を行うこと。

2. 使用薬剤について

- ① 原則として院内採用薬を処方する。
- ② 院内未採用薬の処方については各医師年間10剤とし、院外採用願で事前に申請が必要。
採用検討会で承認をされた後に処方が可能となる。

3. 処方箋発行について

- ① 処方箋は医師が入力したPCに接続するプリンターから出力される。
- ② 診察終了時、処方箋をクリアファイルに入れ他の伝票とともに医事課に提出。
- ③ 医事課受付で処方箋記載事項に不備がないかを確認ののちお渡しする。

4. ファクシミリコーナーの設置について

- ① 病院は八代薬剤師会にファクシミリコーナーを提供する。
- ② 休日を除く、月～金曜日（AM9:00～PM3:00）に八代薬剤師会より職員を派遣する。
- ③ FAXコーナー不在の場合は、患者様からの依頼があれば薬剤部でFAXを行う。
- ④ FAX料金は、八代薬剤師会からの負担（通話料も含む）で行う。

5. 院外薬局からの問い合わせについて

- ① 原則として院外薬局からの問い合わせについては、薬剤部を窓口として行う。
(薬剤師会提供の直通回線：39-8610)
- ② 院外薬局に対しての情報提供（採用薬の変更、医師の転出・転入、調剤内容、などについて）は熊本総合病院 薬剤科ホームページまたは薬剤師会広報を通じて随時行う。

6. 院内処方とする場合について

<全科共通>

- ① 休診日（すべて）と平日時間外の救急患者
- ② 当院入院中の他科受診における処方について
- ③ 他院入院中の当院受診における処方について
- ④ 治験薬（治験薬以外の該当科処方は院外）
- ⑤ 血友病治療の注射薬
- ⑥ 院内特殊製剤（ペラニンデポー軟膏、カプサイシン軟膏、特殊浣腸液など）
- ⑦ 労災・交通事故（自賠責）などで院外処方の扱いが困難と判断される場合
- ⑧ 検査・処置に伴う薬剤
- ⑨ 診療上支障をきたす場合
- ⑩ ハンデキャップ等で院外処方が困難と判断される場合
- ⑪ 「選定療養及び特定療養費」に該当する医薬品
川崎病におけるアスピリン、バイアスピリン

* ⑪の薬剤が処方された時の他剤処方も内容に関わらず院内となる